

社会福祉法人 聖マリア会

令和4年度 事業報告書

事業の実施状況

新型コロナウイルスの施設内クラスター発生や物価高、光熱水費の高騰などが経営に影響し厳しい状況となりましたが、利用者サービスの一層の向上を図るべく各事業に取り組んでまいりましたので、その概要を次のとおり報告いたします。

(1) 福祉・介護人材の確保

福祉・介護人材の離職を防止するために、短時間正職員制度の導入やストレスチェック制度の整備・運用を開始し、労働環境の整備を行った。また福祉の仕事に関心を持ち、当法人の運営方針について理解し、共感してくれる人材を受け入れ、育てていくために介護職員の資格要件について緩和を行った。

(2) 新型コロナウイルスの施設内クラスター発生

令和4年12月7日に最初の感染者が発生し、感染終息日の令和5年1月22日までに施設入所者9名、職員8名の合計17名が感染した。

嘱託医の指示のもと危険区域のゾーニングを正確に行いながら、感染者の施設内療養を行うとともに協力病院と連携して感染の拡大と入所者の重度化を最小限にとどめることができた。

新型コロナウイルスの施設内クラスター発生における助成金について
新型コロナウイルス感染症施設内療養協力金（150万円）及び愛媛県新型コロナウイルス感染症流行下における介護サービス事業所等のサービス提供体制確保事業補助金（約537万円）を申請している。

(3) 「LIFE」、「介護ロボット」の運用

「LIFE」（科学的介護情報システム）については新たな加算算定の取り組みの検討を行い、「介護ロボット」の見守り機器10台（カメラ付き5台）と介護記録システムの運用では、夜間勤務において毎日常時使用することが習慣化できた。

全国老人福祉施設大会・研究会議にて「ノーリフティングケアへの道～2年経過」と題して実践発表を行い「奨励賞」を受賞した。

(4) 地域密着型通所介護事業への集約

（介護予防）認知症対応型通所介護事業を休止し、地域密着型通所介護事業に集約し、土曜日のサービス実施とサービス提供時間を変更することで、延利用人員増により前年比で約170万円の収入増となった。

(5) 土地の取得と基本財産への組入れ

法人の敷地内に土地賃貸契約を結び駐車場として使用している土地（933.49㎡）を、法人の事業の用に供するとして必要不可欠なものであるため取得（買取価格2,750万円）し、基本財産に組入れた。

1. 法人の概要

1. 法人名 社会福祉法人 聖マリア会
2. 所在地 愛媛県今治市上徳甲 1 1 0 番地 1
3. 法人の事業
 - (1) 第一種社会福祉事業
 - (イ) 特別養護老人ホームの経営
 - (ロ) 軽費老人ホームの経営
 - (2) 第二種社会福祉事業
 - (イ) 老人デイサービス事業の経営
 - (ロ) 老人短期入所事業の経営

2. 役員等の状況

構成 (令和 5 年 3 月 31 日現在)

理 事	定数	6 名以上 1 1 名以内 (現員 1 0 名)
監 事	定数	2 名以内 (現員 2 名)
評議員	定数	7 名以上 1 2 名以内 (現員 1 1 名)

3. 令和 4 年度理事会開催状況

開催年月日 出席人数	議案
令和 4 年度第 1 回理事会 (理事会決議の省略) 決議事項の提案をした理事 理事長 木原 晃 理事会の決議があったものとみなされた日 令和 4 年 6 月 3 日(金) 議決に加わることのできる理事総数 理事 10 名	第 1 号議案 社会福祉法人聖マリア会令和 3 年度事業報告について 第 2 号議案 社会福祉法人聖マリア会令和 3 年度決算について 第 3 号議案 社会福祉法人聖マリア会敷地内買収用地の基本財産への組み入れについて 第 4 号議案 社会福祉法人聖マリア会定款変更について 第 5 号議案 社会福祉法人聖マリア会短時間正職員就業規則の制定について 第 6 号議案 社会福祉法人聖マリア会職員就業規則の一部改正について 第 7 号議案 社会福祉法人聖マリア会定款施行細則の一部改正について 第 8 号議案 社会福祉法人聖マリア会定時評議員会への提案について (評議員会の決議の省略及び報告の省略により行うことを各評議員に提案するもの)
令和 4 年度第 2 回理事会 (理事会決議の省略) 決議事項の提案をした理事 理事長 木原 晃 理事会の決議があったものとみなされた日 令和 5 年 3 月 20 日(月) 議決に加わることのできる理事総数 理事 10 名	第 1 号議案 社会福祉法人聖マリア会令和 4 年度補正予算について 第 2 号議案 社会福祉法人聖マリア会令和 5 年度事業計画について 第 3 号議案 社会福祉法人聖マリア会令和 5 年度予算について 第 4 号議案 社会福祉法人聖マリア会職員の育児・介護休業等に関する規則の制定について 第 5 号議案 社会福祉法人聖マリア会職員就業規則の一部改正について 第 6 号議案 社会福祉法人聖マリア会嘱託職員就業規則の一部改正について 第 7 号議案 社会福祉法人聖マリア会短時間正職員就業規則の一部改正について 第 8 号議案 社会福祉法人聖マリア会職員給与規程の一部改正について 第 9 号議案 社会福祉法人聖マリア会定款施行細則の一部改正について 第 10 号議案 社会福祉法人聖マリア会評議員選任・解任委員会に提案する「次期評議員候補者」の推薦について 第 11 号議案 重要な役割を担う職員の選任について ①報告事項 1 専決事項報告書 (書面報告) ②報告事項 2 社会福祉法人聖マリア会中期経営計画

4. 令和4年度評議員会開催状況

開催年月日 出席人数	議案
令和4年度定時評議員会 （評議員会決議の省略） 決議事項の提案をした理事 理事長 木原 晃 評議員会の決議があったもの とみなされた日 令和4年 6月17日(金) 議決に加わることのできる 評議員総数 評議員 11名	第1号議案 社会福祉法人聖マリア会令和3年度決算について 第2号議案 社会福祉法人聖マリア会定款変更について
	①報告第1号 社会福祉法人聖マリア会令和3年度事業報告について

5. 特別養護老人ホームみどりの郷

特別養護老人ホームみどりの郷の令和4年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

1. 令和4年度稼働目標 稼働率95%に対して94.8%であった。

【原因】

ノーリフティングケアにおける実践力の強化を行い、入所者にも職員にも優しいケアを定着させることで、入所者の生活が安定し入院者数を減らすことができた。そのことが職員のやりがいにつながり離職率の低い状態を維持することで、さらに良いケアが提供できるようになった。また生活相談員の役割を明確にし、入退所業務を最優先させることが目標稼働率に近づけた要因だと考える。

【対策】

年度途中で施設内クラスターが発生してしまったが、チームワークを発揮して何とか乗り切ることができた。新型コロナウイルスの発生状況は稼働率や運営に直結しうる問題であり今後も万全の態勢を継続する必要がある。

2.

強化

- ① 思いに寄り添った個別ケアの提供
- ② 看取りケアの実現
- ③ ノーリフティングケアに基づく専門性の高い知識と技術で生活援助
- ④ ICT、介護ロボット、LIFEを活用した現場の革新

継続

- ① 楽しみのある食生活や余暇活動の提供
- ② 介護事故の予防及び早期対応と再発の防止
- ③ 虐待及び身体拘束を発生させない体制
- ④ 災害及び感染対策に強い体制

【 実績 】

入所者により良いサービスを提供するために上記の目標を立てて、各委員会とユニットが実現のために活動した。新型コロナウイルスの影響で、入所者、家族、職員が閉塞感を感じる状況が続いたが、全ての職員が自分の役割を意識し他職種で連携して利用者に向き合った。

特に目標としていた「看取りケアの実現」において、ご本人及びご家族の望む形で看取ることができたことは、職員が一丸となって最後まで尊厳ある生活を提供できたことであり、今後において大切な経験となった。

ノーリフティングケアにおいては当施設での取り組みを全国大会の研究会議にて発表し「奨励賞」を受賞することができ進むべき方向性は間違っていないと確信している。

今年度も基本を疎かにすることなく接遇力、人間力向上に努め、入所者に敬意をもってケアを行うとともにＩＣＴや介護ロボットの活用をすすめる職員の業務負担軽減の対策を行い、意欲をもって働き続けることができる環境を整えることができた。

(1) 定 員 58名 令和5年3月31日現在
個 室 14 、4人部屋 11

(2) 入所者 58 名 男性 14 名
 女性 44 名

(3) 入所者年齢

	69 歲以下	70～79 歲	80～89 歲	90～99 歲	100 歲以上	計
男 性	0	4	7	3	0	14
女 性	1	3	16	24	0	44
計	1	7	23	27	0	58

	最低年齡	最高年齡	平均年齡
男 性	72 歲	91 歲	83.4 歲
女 性	67 歲	99 歲	88.5 歲
計	67 歲	99 歲	87.3 歲

(4) 年度別利用状況

年 度	日 数	延利用日数	1 日当人員	利用率	備 考
4 年	365	20,068	54.98	94.8	
3 年	365	19,669	53.89	92.9	
2 年	365	18,949	51.92	92.1	

(5) 入退所状況 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

- 入所者 12名 入所前居所 (自宅3名、老健2名、グループホーム3名、病院4名)
- 退所者 13名 退所理由 (長期入院 8名、死亡5名)

(6) 現入所者の入所年度

24～27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	計
3名	4名	4名	8名	4名	8名	17名	10名	58名

(7) 現入所者の平均在所日数

- 4 年度 1,081日 (2年11月)
- 3 年度 989日 (2年08月)
- 2 年度 1,310日 (3年07月)

(8) 入所者の年間平均介護度

- 4 年度 4.02
- 3 年度 4.15
- 2 年度 4.23

(9) 特例措置による入所状況 11日

(10) 入所待機者 191名 (他施設との重複含む)

(11) 入所検討委員会開催

年4回 (4月、7月、10月、1月)

6. 短期入所（ショートステイ）事業

ショートステイみどりの郷の令和4年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。(詳細な数字は末尾に表示)

1. 令和4年度稼働目標 稼働目標 50%に対して 28.8%であった。

【原因】

月平均利用人数を2～3名とし、施設入所者の入院や欠員を補うよう調整をしてきたが、12月～1月の新型コロナの発生とクラスターによりショートステイ受け入れを中止せざるを得なかった。また、施設内の感染症対策の隔離部屋確保でショートステイ受け入れのための居室の制限があり、積極的受け入れに繋がり難い現状があった。

【対策】

施設内と外部からの新型コロナ持ち込み対策のため、ショートステイ利用者の健康管理と家族への理解を得て、利用することへの安心に繋がる個別ケアと事故防止ケアを今後も万全の態勢で継続する必要がある。

2.

強 化

- ① 思いに寄り添った個別ケアを提供
 - ・不慣れな環境で安心して生活を送ることができるよう、思いに寄り添った援助で信頼関係を築き、利用者の心身に応じた安全で快適な生活を支援する
- ② 介護事故の予防及び早期対応と再発の防止
 - ・介護事故を未然に防止できるよう、個人の心身状態に沿った環境整備とケア援助を行う
 - ・介護事故や疾病が発生した場合の早期対応を含めたリスクマネジメントの充実を図る

継 続

- ① ご家族、他機関と情報を共有し、意思や意向に沿った柔軟なサービスの提供
- ② 在宅生活を継続するための身体機能の維持活用
- ③ 不適切ケアを改善し、尊厳のある援助と虐待を発生させない体制
- ④ 災害や感染症対策に強い体制

【 実績 】

- ① 新型コロナ禍、利用者及び家族の意向に沿えるよう柔軟な対応と個別ケアの提供をスタッフ間で情報共有し、協力し合いながら質の向上に努めた。また、ノーリフティングケアの知識と技術を、要望のある家族へ情報提供することができた。
- ② 利用者の安全と過ごしやすい環境に配慮しつつ、ベッド周辺環境と行動面からの予測される事故に関して、利用毎にスタッフ間で申し送りを行い予防に努めた。また家族に対しても理解していただき、日頃からの情報共有と信頼関係を築く努力をしてきた。起きてしまった事故に関しては原因を確認し、再発防止に努めた。

(1) 定 員 9 名 (予防型含む)

(2) 年度別利用状況

年度	日数	実利用人員	延利用日数	1 日当人員	利用率	備 考
4 年度	365	163 (1)	949 (5)	2.60	28.9	1 人当平均利用日数 5.82 日
3 年度	365	138 (2)	748 (4)	2.05	22.8	5.42 日
2 年度	365	128 (0)	907 (0)	2.48	20.1	7.08 日

() 内は介護予防分を再掲

(3) 利用者の年間平均介護度

4 年度	2.64
3 年度	3.27
2 年度	3.67

7. 地域密着型通所介護（デイサービス）事業

デイサービスセンターみどりの郷（地域密着型）の令和4年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。（詳細な数字は末尾に表示）

1. 令和4年度稼働目標 稼働目標 90%に対して 76.4%であった。

【原因】

10月以降、週に3～4回利用している利用者の中止が相次ぎ、それを補うだけの新規利用者獲得ができなかったことと、デイサービスの内容を知ってもらうための活動不足であった。

【対策】

周知のために、デイの活動状況や1日の流れなどを居宅介護支援事業所等に配布する。

またアピールポイントが少ないことが利用者獲得が困難となっている原因のため、早急にアピールポイントを増やせるよう、ハード・ソフト面ともに見直して特徴のあるデイサービスを目指す。

2.

強 化

- ① 日常的に感染症予防対策を徹底し、施設に持ち込まないよう細心の注意を払う
- ② 事業変更に伴い、今まで以上に利用者・ご家族のニーズに応えられるよう努める
- ③ 職員一人ひとりが責任感・やりがいを持って働ける環境をつくる

継 続

- ① 利用者の身体的・精神的特徴を考慮した上での個人の健康状態の把握・対応
- ② 他事業所やケアマネージャーとの連携を強化し、利用者増に努める
- ③ 利用者の生活歴や現在の状況などのアセスメントを強化し、生きがいを持てるよう支援する

【 実績 】

- ① 感染症の予防対策は利用者、家族に対しても利用前検温や県外外出や帰省時の報告などをお願いして徹底できた。
- ② ニーズにはある程度答えることができたが不十分であった。もっと思いを形にしていけるよう時間配分や配置を変更する必要がある。
- ③ 責任ある仕事に取り組んでもらうことで職員の責任感が増している。
- ④ 利用者の健康面や生きがいづくりはおおむね安定して支援できた。
- ⑤ 他事業所との強化はまだ安定しておらず、今後とも積極的にデイサービスをアピールしていく必要がある。

(1) 定 員 ア. 地 域 密 着 型 18 名
 イ. 通所型サービス 地域密着型の定員内
 ウ. 認知症対応型 (休止)

(2) 営業日・サービス提供時間

- 1 週間の営業日数 6 日（月～土曜日）
- 1 日のサービス提供時間
- | | |
|------------|--------|
| ア. 地域密着型 | 6～7 時間 |
| イ. 通所型サービス | 6～7 時間 |
| ウ. 認知症対応型 | （休止） |

(3) 年度別利用状況

区分 年度	(日) 開所日数	地域密着型		通所型サービス		認知症型		計		(人) 1日平均	(%) 利用率
		実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員		
4年度	308	338	3,792	71	448	－	－	409	4,240	13.8	76.5
3年度	256	231	2,449	72	485	93	1,038	396	3,972	15.5	51.7
2年度	256	197	2,125	65	490	118	1,365	380	3,980	15.5	51.8

(4) 利用者の年間平均介護度

区 分	地域密着型	認知症対応型
4年度	2.39	－
3年度	1.72	3.77
2年度	1.45	3.77

(5) 配食サービス事業

今治市よりの受託事業 月～金（ 昼食 ）
4 年度 435 食

3 年度	646 食
2 年度	650 食

8. ケアハウス事業

ケアハウスせせらぎの令和4年度事業計画は以下のとおりで、それに対しての実績、達成度を報告する。(詳細な数字は末尾に表示)

1. 令和4年度稼働目標 稼働目標 80%に対して 66.4%であった。

【原因】

令和4年度は7名の新規入所者、7名の退所があった。転倒が原因で歩行困難となり、退所になったケースがあった。転倒が原因で退所された入所者の方は ADL 低下や認知症状の進行も顕著になってきており、その方々には、転倒防止のために手すりの設置や、デイ・ヘルパーの利用開始を提案し、実施もしてきたが、転倒を防ぐことができなかった。

新規入所者の中には、介護度が高い、家族間トラブルなどの理由から長期的な入居に繋げることができない人もいた。

【対策】

ケアハウスの空室状況は、関連事業所が来設した際など適時担当者に伝える。また、問い合わせにはわかりやすい言葉で施設説明を行い、受け入れ困難と思われる場合にも、「せせらぎの対応は親切だった」と思っただけのように可能な限り丁寧に対応し、今後の新規入所者の獲得に少しでも繋げられるようにする。

2.

強化

- ① 入所者の自己決定や尊厳を守りつつ、サービスの情報提供と提案
- ② 入所者の異常の早期発見ができるよう身体状態の把握に努める
- ③ 入所者の事故防止・安全確保に最善を図り安定した生活を送っていただく
- ④ 介護度の高い入所者については、デイ・特養との連携を強化し、将来的にも安心して生活が送れるよう援助する

継続

- ① 感染症対策等、わかりやすく正確な情報の発信を行う
- ② 健康状態が損なわれた時に、速やかに関係先と連携し、早期治療ができるよう援助する
- ③ コスト意識を高め、経費節減に努める
- ④ 他事業所・支援事業所等との連携と情報共有で、新規入所者を増やす

【実績】

居室環境があまり良くない居室 1 室の利用料金の値下げを行い、所得の少ない方の入所につなげることができた。

新型コロナウイルス感染対策では、入所者に対して日々、正確な情報の

入所問い合わせは、前年度の2倍以上の60件を超えたが、認知症状や介護度が高く常時介護が必要、ご本人に入所の意思が無い、経済的に困難、身元引受人が居ないなどの理由から入所に繋がる方は7名に留まった。

(2) 入居者 17 名 男性 4 名 女性 13 名
 単身者 17 名 夫婦 0 名

25～27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	計
3名	3名	1名	2名	2名	2名	0名	4名	17名

	60～69 歳	70～79 歳	80～89 歳	90 歳以上	計
男 性	0	1	1	2	4
女 性	1	1	7	4	13

	最低年齡	最高年齡	平均年齡
男 性	73 歲	91 歲	86.0 歲
女 性	66 歲	97 歲	85.5 歲
計	66 歲	97 歲	85.6 歲

入居者 7名 入居前の居所 (自宅 6名、病院 1名)
退居者 7名 退 居 理 由 (特養 1名、病院 2名、老健 1名
自宅 3名)

4	年度	1,543 日 (4 年 02 月)
3	年度	2,117 日 (5 年 09 月)
2	年度	1,905 日 (5 年 02 月)

未認定者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
2名	1名	6名	5名	3名	—	—	—	17名